

2015 年度 事業計画書

公益財団法人 武田科学振興財団

当財団は、「科学技術の研究を助成振興し、科学技術思想の普及を図り、もって我が国の科学技術および文化の向上発展に寄与する」ことを目的として、文科省の認定を受けて1963年9月30日に設立し、その後内閣総理大臣の認定を受けて2010年12月1日に公益財団法人に移行した。

当財団の事業活動の財源である武田薬品工業株式会社からの同社株式に対する受取配当金は、2009年度（財団の受取額32.60億円）以降、最高水準の配当が2014年度まで継続している。

本年度受取配当金は、2014年度と同額が見込まれるが、2015年度以降の配当金については、予想が難しいことから、財団として見直しを行った2013年度と同程度の事業規模とする。

(1) 科学技術に関する研究機関および研究者に対する研究助成（研究助成）

- ① 武田報彰医学研究助成は、理事、評議員、名誉顧問、武田医学賞選考委員、武田医学賞受賞者、日本学士院会員〔第7分科〕、日本学士院賞受賞者〔1999年以降医学関連〕の87名から推薦された、研究室立上げ3年未満の医学系研究者を対象に、選考委員会で決定し、1件3,000万円7件計2億1,000万円を贈呈する。
- ② 生命科学研究助成は、生命科学分野の研究者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件1,000万円20件程度計2億円を贈呈する。
- ③ ライフサイエンス研究奨励は、医学・歯学・薬学系研究機関以外の生命科学研究者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件200万円30件程度計6,000万円を贈呈する。
- ④ 医学系研究奨励は、医学系の研究者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件200万円200件程度（癌領域、精神・神経・脳領域、感染症、基礎、臨床；各採択率は一律とする。）計4億円を贈呈する。

継続助成は、本研究奨励の2012年度および2013年度被助成者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件300万円20件（生活習慣病4件、精神・神経・脳領域5件、感染症2件、基礎6件、臨床3件）計6,000万円を贈呈する。

- ⑤ 薬学系研究奨励は、薬学系の研究者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件200万円40件程度計8,000万円を贈呈する。

継続助成は、本研究奨励の2012年度および2013年度被助成者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件300万円5件計1,500万円を贈呈する。

- ⑥ 特定研究助成は、研究機関を対象として、我が国の医学の発展に寄与する研究を対象に公募を行ない、選考委員会で決定し、1件5,000万円以内10件程度計4億円を贈呈する。

- ⑦ ビジヨナリーリサーチ助成〔スタート〕は、医学分野の進歩・発展に貢献する将来に向けて夢のある、成功すれば卓越した成果が期待できる研究を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件200万円25件程度計5,000万円を贈呈する。

さらに成果が期待できる研究に対しては、継続助成を実施する。

本年度継続助成〔ホップ〕は、(i)2012年度および2013年度〔スタート〕被助成者、(ii)2012年度〔スタート〕被助成者で2014年度〔ホップ〕非採択者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件500万円最大10件計5,000万円を贈呈する。

本年度継続助成〔ステップ〕は、(i)2012年度および2013年度〔ホップ〕被助成者、(ii)2012年度〔ホップ〕被助成者で2014年度〔ステップ〕非採択者を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件1,000万円最大5件計5,000万円を贈呈する。

- ⑧ 高等学校理科教育振興奨励は、全国の高等学校およびそれに準ずる教育機関に所属する教員および職員を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件30万円40件程度計1,200万円を贈呈する。

- ⑨ 中学校理科教育振興奨励は、全国の中学校およびそれに準ずる教育機関に所属する教員および職員を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件30万円30件程度計900万円を贈呈する。

- ⑩ 杏雨書屋研究奨励は、杏雨書屋所蔵資料に関連する研究を対象に公募を行い、選考委員会で決定し、1件50～100万円7件程度計500万円を贈呈する。

以上、研究助成の贈呈金総額は16億100万円(対前年度計画比9,500万円増)となる。

(2) 研究者および学生に対する奨学助成（奨学助成）

① 外国人留学研究者に対する助成（外国人留学助成）

日本において医学・薬学などの医療分野で研究する外国人留学研究者に対する留学助成を行う。

- a. 7 指定国・地域（下表参照）については、各国選考委員会で選考され、かつ日本国内の研究機関より受入れ承認された留学研究者候補について所定の審査のうえ、理事長の承認を経て決定し、計 51 名に留学助成を行う。なお、このうち 6 名（台湾：1 名、タイ：1 名、フィリピン：1 名、中国：2 名、インドネシア：1 名）は、35 歳以下の基礎研究者（留学助成期間は原則 1 年以上 2 年以内）とする。
- b. 7 指定国・地域以外の国については、留学助成の対象となる留学研究者は 5 名とし、日本国内の研究者が申請した被招聘者について、日本国内の選考委員会で選考し、理事長の承認を経て決定する。
- c. 留学助成金は月額 25 万円とする。
- d. 留学助成する留学研究者数の内訳は、次の通りである。

（ ）は基礎研究者数

国名	2015・2016 各年度人数計画
台湾	6 名 (1 名)
タイ	8 名 (1 名)
フィリピン	8 名 (1 名)
韓国	5 名
中国	10 名 (2 名)
インドネシア	8 名 (1 名)
ベトナム	6 名
7 指定国 小計	51 名 (6 名)
上記 7 指定国以外	5 名
合計	56 名 (6 名)

② 医学部博士課程入学者に対する助成（医学部博士課程奨学助成）

医学部医学科卒業見込学生および医学部医学科卒業者で国内の指定 7 大学（東京大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、北海道大学、東北大学、九州大学）の医学（系）研究科博士課程基礎医学系への入学者に対し、奨学金（年間 360 万円、最大 4 年間）の支給を行う事業を実施する。

指定 7 大学から募集、選考、推薦された候補者（各大学から 2 名 計 14 名）につい

て、理事長が最終決定し、奨学助成する。本年度は、2012年度から2014年度の奨学助成者34名と合わせて計48名に、総額1億7,280万円を奨学助成する。

また、2013年度助成者で継続奨学助成の推薦を受けた者の中から、審査の上、研究優秀者に対し1件50万円 最大2件 計100万円を追加奨学助成する。

(3) 科学技術に関する注目すべき研究業績に対する褒賞（武田医学賞）

武田医学賞は、理事、評議員、名誉顧問、武田医学賞選考委員、武田医学賞受賞者、日本学士院会員（第7分科）、日本学士院賞受賞者（1999年以降医学関連）の87名から推薦された、医学界において顕著な業績を挙げられた候補者につき、選考委員会で受賞者2名または2件を決定し、武田医学賞（賞状・賞牌・盾）および副賞（1件1,500万円）を贈呈する。11月12日（木）に贈呈式ならびに祝賀式を行う。

(4) 科学技術に関する時流に合ったテーマによる国際シンポジウムの開催（国際シンポジウム）

生命科学ならびに薬科学における未解決の問題を解明するために、国内外の科学者が一堂に会し、その時期のニーズに適切にマッチしたテーマを基にその叡智と知識を交換する国際シンポジウムを開催する。

① 本年度は第8回 武田科学振興財団薬科学シンポジウム The 8th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences を開催する。

テ — マ：「生命分子から薬を創る — 中分子薬を中心に —」

“Biomolecule-Based Medicinal Science: Featuring Mid-Size Drugs”

組織委員長：木曾 良明 博士（長浜バイオ大学 教授）

組織委員：上杉 志成 博士（京都大学 教授）

堅田 利明 博士（東京大学 教授）

佐々木 茂貴 博士（九州大学 教授）

周東 智 博士（北海道大学 教授）

講演：20名を予定（国内10名、国外10名）

ポスター発表（公募）

会期：2016年1月21日（木）～22日（金）

場所：武田薬品工業株式会社研修所（大阪府吹田市）

参加者 : 400名 (参加費無料、宿泊費 240名まで無料、事前登録制)

案内方法 : 財団ホームページ・ポスター・メールによる会告配信・関連学会誌掲載などによる案内。なお、シンポジウムポスター褒賞は、第8回武田科学振興財団薬科学シンポジウムに応募したポスター発表者を対象に、選考委員会で決定し、1件50万円5件計250万円(褒賞)を贈呈する。

(5) 科学技術の振興に関する出版物の発刊 (本草医書発刊)

① 杏雨書屋蔵書の複製本や学術書を発刊する。

本年度の発刊予定は、医家肖像集 第二編、大蔵経、本草論集である。

② 杏雨書屋機関誌「杏雨」18号を発刊する。

(6) 東洋医書その他図書資料の保管、整理、収集および公開 (本草医書公開)

① 研究者を対象にした閲覧、複写サービス、保管図書資料の常設展示および年2回テーマを決めた特別展示会を行う。

② 特別展示会のテーマに基づく研究講演会を年2回開催する。

③ 図書資料の解読・調査作業および目録作成(電子化を含む。)、所蔵図書複写、蔵書補修、書套作製を継続する。

④ 本草書・東洋医書を中心とした関連図書の収集を進め、所蔵図書の充実を図る。

以上

事業年度 2015年4月1日～2016年3月31日

資金調達及び設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込みについて

当期中における借入れの予定の有無を記載し、借入れ予定がある場合には、その借入れ先等を記載してください。

借入れの予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入れ先	金額		用途	

(2) 設備投資の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除却又は売却を含む。）の有無を記載し、設備投資の予定がある場合には、その内容等を記載してください。

設備投資の予定		<input checked="" type="checkbox"/>	あり	<input type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の予定額		資金調達方法又は取得資金の用途	
公6	重要古書の購入	100,000,000円		自己資金	